

# からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」

支援団体 NPO法人ドラマケーション普及センター

授業時間 6～12コマ

## 【プログラムのねらい】

役者経験者を中心とした講師陣による演劇の手法を用いた様々なワークショップを実施

- 自己理解・他者理解を深める
- 自己表現力・積極性を高める

コミュニケーション能力の向上

## プログラムの流れ

### ① 「学校」と「NPO法人ドラマケーション普及センター」の打合せ

生徒には○○の力を身に付けてもらいたい。その部分を重点的に取り組みたい。

学校

共有

- プログラムの目的
- 生徒の様子
- 学校の教育目標
- 授業の構成

ドラマケーション普及センター

クラス替え直後で生徒がワークをできるか不安…

授業内容を学校の希望に応じて、カスタマイズ

### ② 授業実施例

#### (1) 導入部

講義「コミュニケーションの必要性」、「会社が求める人材とは」(初回のみ10～20分)

#### (2) ワーク (2コマ×3～6回)

##### ①自己認知・他者理解

- からだを通じて、自分・他者に気付いていく。
- 感性(五感)を刺激し、「やる気」を喚起する。

##### ②コミュニケーション力を高める

- 自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちを受け取る。

##### ③人前に出る積極性を身に付ける

- 簡単な表現遊びにより、周りから見られることに慣れ、表現の楽しさを知る。

##### ④頭の中で即興的に言葉を紡ぐ

- 相手の話を聞くことの大切さに気付く。
- 自由な発想により、言葉の構成力を高める。



①～④までの各項目で100種類のプログラムを用意

※ワークで培った能力を実践するプログラムとして、以下のプログラムを追加実施できます。(実施には2コマ×4回以上のワークを終えていることが必要)

#### (3) 2分間スピーチ

1人ずつ、クラス全員の前で、自分の氏名と課題を2分間話す。

#### (4) ロールプレイによる模擬面接



## 【都立高校での導入】

平成26年度は、10校の都立高校で、1・2学年を中心に、入学時、クラス替え直後や学校行事の前などの時期に導入されています。

支援者の声

### ■ NPO法人ドラマケーション普及センター 理事長 三嶋 浩二さん

このプログラムは、コミュニケーション能力・表現力の醸成を目的としています。その方法として身体感覚を伴ったコミュニケーションの経験を積む内容を徹底して行います。プログラム内容は、コミュニケーションゲーム等ですので、誰でも気軽に取り組めます。また、生徒の様子や全体の雰囲気・状態、変容を確認しながらその都度実施する内容を再構成していきます。「からだで感じるコミュニケーションワークショップ」の延長として「模擬面接」を設定することができます。模擬面接では、面接官、受験者、観察者の3つの立場を生徒が体験していきます。プログラム導入の事前打ち合わせで、担当の先生だけでなく、多くの先生にもプログラムの主旨などを御理解いただき、生徒と共にプログラムに参加していただければと思います。

